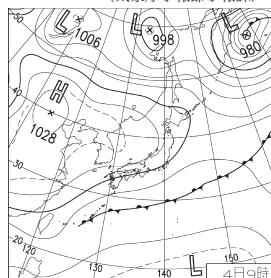


# 日々の天気図

— No. 111

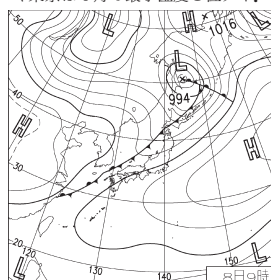
## 2011年 4月

- 5日～6日、朝は冷え込むが、日中は暖かく各地でサクラ満開。
- 23日、発達中の低気圧の影響で、多くの地点で日降水量100mmを超える。
- 30日、沖縄・奄美では平年より10日ほど早く梅雨入り。  
(気象庁予報部予報課)



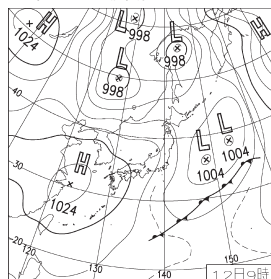
### 4日(月) 高気圧張り出す

北日本と南西諸島を除き高気圧に覆われ晴れ朝は冷え込み、西日本以北の14地点で4月の最低気温の極値を更新。本州太平洋側を中心に湿度低く東京は4月の最小湿度1位タイ。



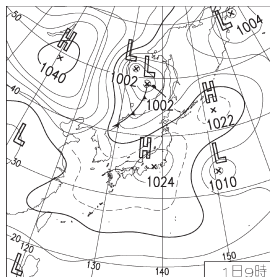
### 8日(金) 寒冷前線南下

北～東日本の沿岸部や関東では本州付近を南下中の寒冷前線に向かって強い南風。関東甲信を中心に気温が高く、5月中旬並の所も。甲府、横浜等でサクラ満開。



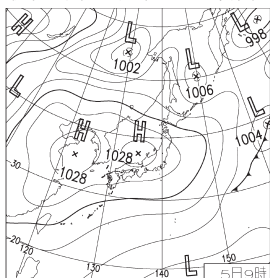
### 12日(火) 西日本・沖縄で少雨続く

移動性高気圧に覆われ全国的に晴れ。朝は西日本を中心に冷え込み、平年より5℃以上も低い所が続出。松江、金沢、宇都宮、銚子、水戸でサクラ満開。福島、仙台で開花。



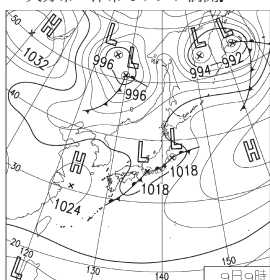
### 1日(金) 暖かい一日

高気圧に覆われ全国的に晴れ。北海道は前線通過時に雨。日中の最高気温は平年より高く、西日本は4月中旬～5月上旬並。広島市・滋賀県彦根市・津市・熊谷市でサクラ開花。



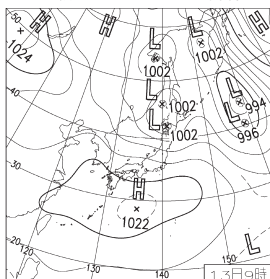
### 5日(火) 日中は春爛漫

高気圧に広く覆われ全国的に晴れ。ただし朝は冷え込み西日本～東北での最低気温極値を更新した所も。日中ほかほか陽気で鹿児島市・佐賀市・大分市・津市でサクラ満開。



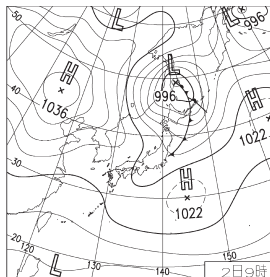
### 9日(土) 西日本～東北で雨

低気圧が本州南岸を通過。西日本は朝まで、東日本～東北は夕方まで雨。最高気温は全国的には平年並か高めの所が多いが、北陸～東北では暖かだった前日から8～11℃も下降。



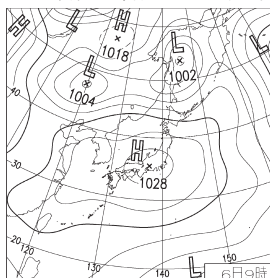
### 13日(水) 東北太平洋側で強風

日本付近は高気圧に覆われ、北海道の雨や曇りを除いて概ね晴れて、関東甲信～東北南部で昼夜の気温差大きく日較差が20℃以上の所も。東北では18 m/s前後の強い西風。



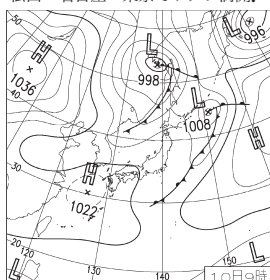
### 2日(土) 北日本を中心に冬型へ

北日本の日本海側で曇りや雨。太平洋側は概ね晴れたが、本州付近に寒気が入り、夕方から所々にわか雨も。福岡でサクラ満開、東京ではタンポポ開花など、各地から春の便り。



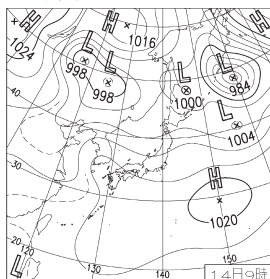
### 6日(水) 日中は暖かい一日

高気圧に覆われ全国的に晴れ。最低気温は氷点下の所もあったが、最高気温は北海道で20℃を超えた所も。松江・水戸・宇都宮でサクラ開花。松山・名古屋・東京でサクラ満開。



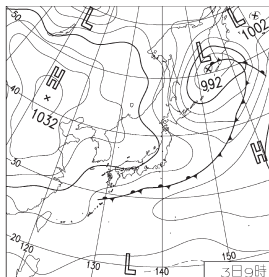
### 10日(日) 全国的に晴天

高気圧が大陸から張り出し、関東南部で雲が多かったものの、全国的に晴れ。気温は、各地とも4月中～下旬並。広島、神戸、京都府舞鶴でサクラ満開。



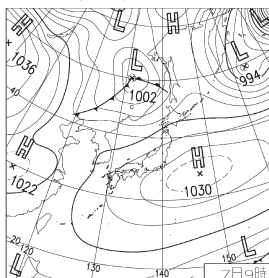
### 14日(木) 被災地も初夏の気温

高気圧に覆われ、全国的に晴天が続く。最高気温も全国的に5月並かそれ以上の陽気。岩手県の沿岸部は軒並み20℃を超え、7月上～中旬並。新潟市でサクラ開花。



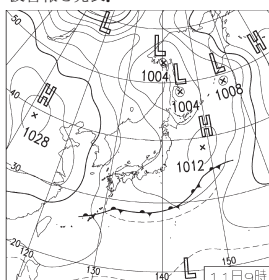
### 3日(日) 全国的に寒い一日

北日本は冬型の気圧配置で日本海側では雪や雨、その他の地方は晴れや曇りだが、西～東日本太平洋側では曇が多く、一部で小雨。最高気温は3月上～中旬並。



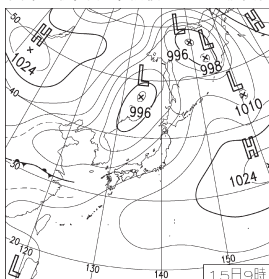
### 7日(木) 全国的に昇温

帯状の高気圧に覆われ晴れた所多く、南寄りの風が入り全国的に気温上昇。夜、東北中心に強い余震が発生し、宮城県に大震災以来となる津波警報を発表。



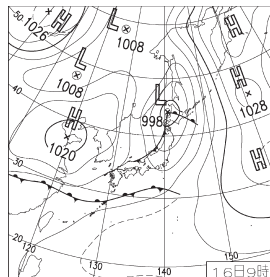
### 11日(月) 本州でわか雨や雷雨

東日本大震災から1ヵ月、各地で黙とう。被災地を含む本州各地でわか雨や雷雨、宇都宮でひょう。南西諸島～九州南部では黄砂を観測。滋賀県彦根、富山、前橋でサクラ満開。



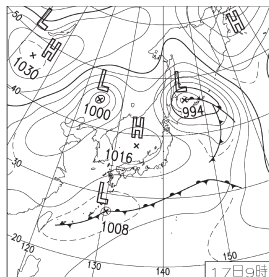
### 15日(金) 東北・東日本空気乾燥

東海上から高気圧に覆われ、東北・東日本は晴れて空気乾燥。最小湿度は軒並み10%台。高気圧の縁にあたる西日本は日中曇りで一時雨の所も。夜は前線の影響で九州で強い雨。



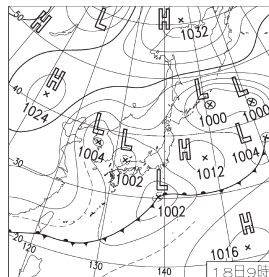
### 16日(土)関東で夏日

南西諸島で雨や雷雨。寒冷前線が通過した東・北日本でも雨や雷雨。太平洋側は気温が上昇し夏日、最高気温は7月並の所も。鹿児島県尾之間で48 mm/1hの雨。



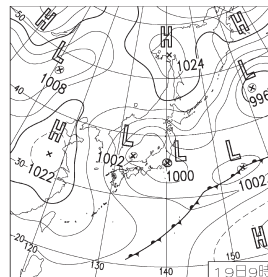
### 17日(日)北海道で気温低め

移動性高気圧に覆われた本州は晴れ。低気圧がオホーツク海に東進し雪や雨となった北海道で、最高気温は平年より5℃～9℃。前線下に低気圧が発生し、南西諸島は雨。



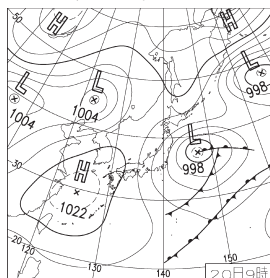
### 18日(月)寒冷渦、ゆっくり東進

寒気を伴った低気圧が日本海をゆっくり東進、九州を除く西日本では所々で雷雨、関東は曇り、その他は概ね晴れ。山形でサクラ開花、横浜でツバメ初見。



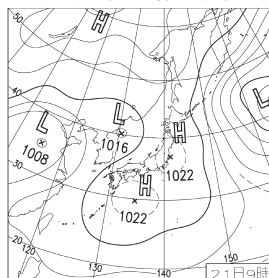
### 19日(火)上空に強い寒気流入

寒冷低気圧が本州付近を通過。九州～東北の広範囲で雨や雷雨。東北は日中でも気温5℃未満で雨から次第に雪。山沿いでは積雪。茨城県鉾田で42.5 mm/1h。福岡、福井でひょう。



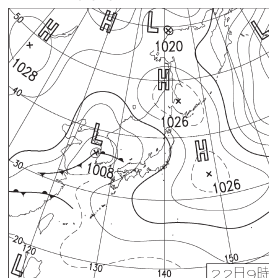
### 20日(水)寒冷低気圧は東海上へ

低気圧が日本の東海上で発達し、日本付近は弱いながら一時的に冬型。北日本の太平洋側は朝まで雨か雪、本州日本海側は夕方まで曇りや雨。盛岡サクラ開花。



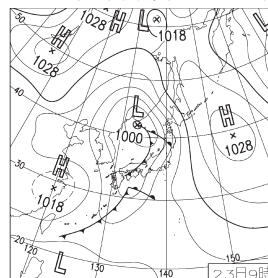
### 21日(木)北日本は気温上がらず

西～東日本は高気圧に覆われて晴れ。関東と東北北部～北海道は寒気の影響で曇りや雨。最高気温は3月下旬～4月中旬並。長野市でサクラ満開。青森市でウメ開花。



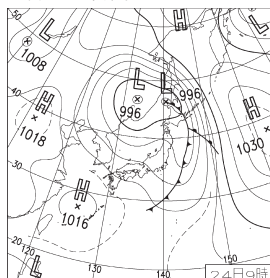
### 22日(金)低気圧、日本海へ

午前中は東日本で晴れ間もあったが、西日本の雨が次第に広がりがた方には東日本にも。気温は各地とも低くなったが、甲府でヤマツツジ開花など各地から季節の便り。



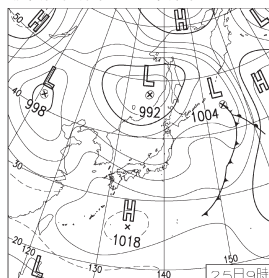
### 23日(土)春のあらし

発達中の低気圧の影響で西日本から雨と風が強まり、夜には北日本まで。日雨量100 mm 超え多数。晴れたのは九州南部だけ。日中は気温が上がらず4月上旬並。秋田でサクラ開花。



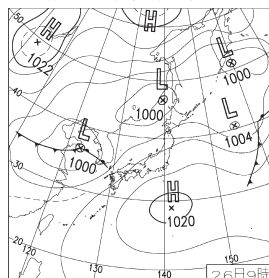
### 24日(日)大雨のち不安定

前線が東海上に抜け、北日本のまとまった雨は朝まで。日中は東日本太平洋側中心に晴れ間が広がったが、上空の寒気の影響で所々でわか雨や雷雨。水戸でひょう。



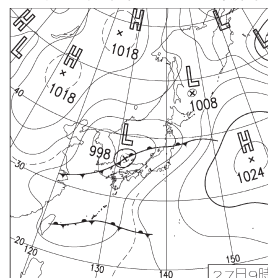
### 25日(月)降ひょうや竜巻

関東以西では南から高気圧に覆われて晴れ。沿海州にある寒冷低気圧の影響で東北や北海道で曇り。晴れた所も大気の状態が不安定で神戸・宇都宮でひょう、千葉では竜巻。



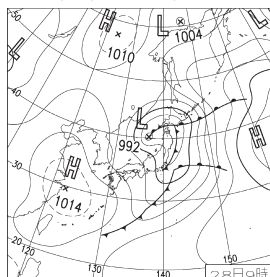
### 26日(火)九州で今年初の真夏日

南海上の高気圧に覆われ、西日本から東日本太平洋側は概ね晴れ。西日本各地で気温上がり、宮崎、大分で真夏日。日本海側は低気圧や前線の影響で広く曇りとなり雨の所も。



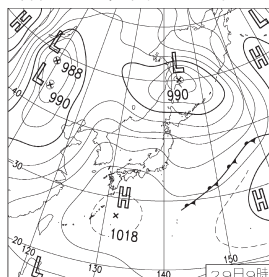
### 27日(水)西日本で荒れた天気

前線を伴った低気圧が発達しながら、日本海を東北東に進み、それに吹きこむ暖かく湿った空気の影響で、九州～近畿にかけて所々で激しい雷雨。高知県香美市繁藤で46.5 mm/1h。



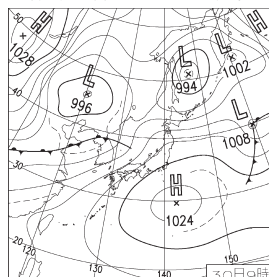
### 28日(木)寒気の影響で不安定

上空の寒気の影響で中国～北日本の日本海側を中心に雨、近畿や関東の一部では雷雨の所も。西日本～北陸では最高気温が前日比10℃以上低い所もあり、3月中旬～4月上旬並。



### 29日(金)西日本は行楽日和

大型連休初日。東～北日本は引き続く上空の寒気の影響で、所々で雨や雷雨。西日本は概ね晴れて朝は冷え込むが、日中はこの時期らしい暖かさに戻る。盛岡市でサクラ満開。



### 30日(土)沖縄・奄美で梅雨入り

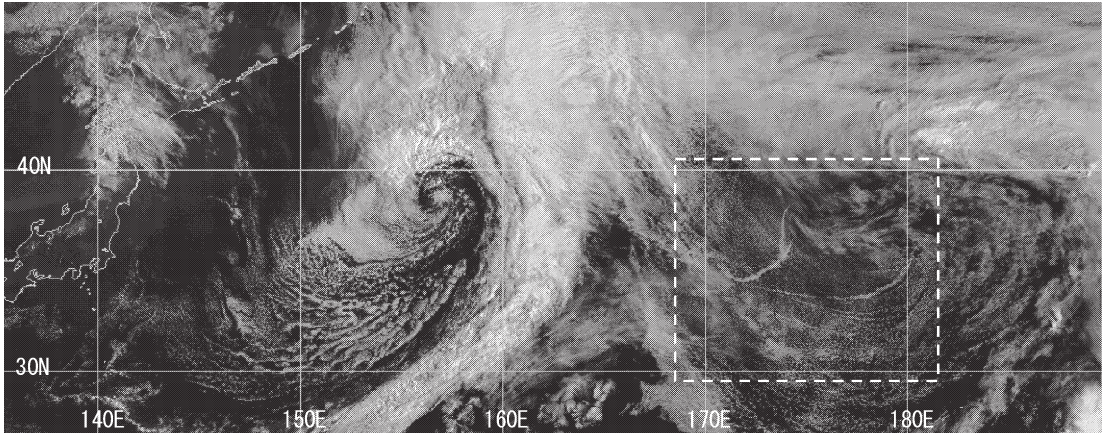
日本海から前線がのび本州日本海側を中心に雨、南西諸島は湿った気流の影響で雨。沖縄・奄美では平年より9日・11日早く梅雨入り。全国的に高気圧の後面で風が強い。



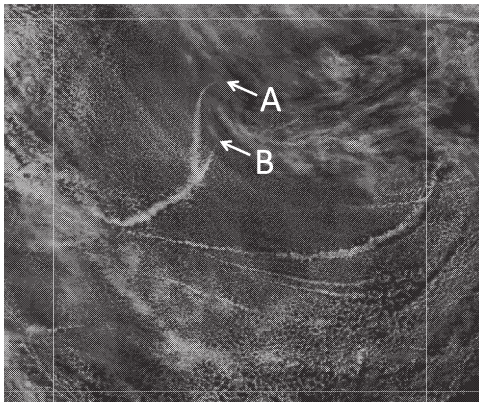


## 今月のひまわり画像—2011年4月

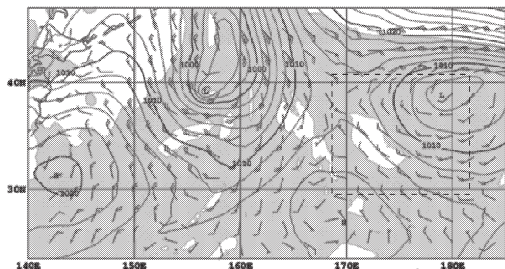
### 航跡雲 (Ship trails)



第1図 2011年4月13日07時（日本時間）の可視画像。



第2図 第1図の破線内の拡大図（記号については本文参照）。



第3図 13日06時のGSMによる地上予想図（初期時刻：同日03時），等圧線は2 hPa毎，風の単位はkt，灰色は高度約1 kmの湿数3°C以下の領域。

第1図は2011年4月13日07時（日本時間）の可視画像で、アリューシャンの南（破線内の領域）には最長約1,000 km、幅約30 kmに達する筋状の雲が見られる。この筋状の雲は航跡雲（Ship trails）と呼ばれており、高崎（1984）は航跡雲近傍の船舶の航路と照らし合わせ、航跡雲の発生源を大型船舶から排出された温排気と考察している。第2図は第1図の同領域内を拡大したもので、動画で確認すると、航跡雲は矢印A、Bの先端部分から湧き出していて、雲頂高度は約3 kmまで達し、周辺の雲とともに北西から南東へ20 kt（1 kt=1.85 km/h）前後の速度で移動していた。

今回航跡雲が発生した領域は、気象庁全球モデル（GSM）の地上予想図（第3図）によると、日付変更線付近の低気圧の南西象限にあっていた。この領域では、12日から複数の航跡雲が発生しており、航跡雲として判別できる時間は最長で約20時間に及んでいた。GSMによると、航跡雲が発生した海域では、広範囲で高度約1 km以下が湿数（気温－露点温度）3°C以下と湿っており、それより上には沈降性逆転層が形成されていた。また、高度約3 km以下の風速は20 kt（1 kt=0.51 m/s）以下と比較的弱く、これらは航跡雲の形状を持続させた原因と考えられる。

#### 参考文献

高崎洋見，1984：北太平洋地域の特殊雲列．天気，31，315-318。

（気象庁予報部予報課航空予報室 原 基）